

『余部鉄橋列車転落事故』および、『福知山線列車事故』の現地踏査に行ってきました！②

2. 福知山線列車脱線事故

2005年（平成17年）4月25日9時18分頃、宝塚発 JR 東西線・片町線（学研都市線）経由同志社前行きの上り快速列車（列車番号 5418M、207系7両編成）が、福知山線塚口駅～尼崎駅間の制限速度 70 km/h の右カーブ区間に 116 km/h で進入し、前5両が脱線しました。脱線したうちの前3両は線路から完全に逸脱し、前2両は線路脇の分譲マンションに激突しました。

先頭車は1階ピロティ部の駐車場へ突入し、2両目はマンション外壁へ横から激突するとともに、脱線逸脱してきた3～4両目と挟まれて圧壊して外壁にへばりつくような状態となり、1～2両目は原形をとどめないほどに大破しました。



この事故により運転士1名が死亡、106名のお客様がお亡くなりになり、562名のお客様と付近を通行中の方1名が受傷されました。

福知山線列車事故現場は将来にわたり事故の痕跡を保存し、事故を決して風化させることなく、命の大切さを社会や後世に誓い続けていく場として、西日本旅客鉄道株式会社によって整備され、『祈りの杜』として、お亡くなりになられた方々の慰霊・鎮魂の場として慰霊碑が建立されるとともに、事故を風化させぬよう列車がマンションに衝突した痕跡が残る部分を中心とした空間や、救急・救助活動が行われた場所が保存されています。

現在は追悼だけでなく、二度とこのような事故を発生させないという決意から「安全考動研修」の場として鉄道安全を追求するための場として活用されています。

鉄道業に従事する私たちにとって、決して忘れてはならない事故であり、『命を預かる使命と責務』を再確認しました